

三 沢 権 道 遺 跡 4

—福岡県小郡市三沢所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第337集

2020

小郡市教育委員会

序 文

本書は、小郡市三沢における共同住宅建築に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。本遺跡が所在する小郡市北部の三沢には、基山からなだらかに東側に延びる通称三国丘陵が広がり、弥生時代を中心とした数多くの遺跡が発見されています。三沢権道遺跡は、その丘陵から南東に延びた低台地上にあり、これまで周辺でも多くの調査成果があります。

今回の調査の中心は中世の建物群と土坑、溝状遺構です。中でも掘立柱建物群は溝状遺構と有機的関係にあると考えられ、小郡市内における中世集落の様相の一例を確認することができました。今回得られた内容が今後永く活用され、この報告書が文化財愛護思想の普及に寄与することになれば幸いです。

最後に、現地発掘調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民のみならず、そして現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

令和2年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 秋永 晃生

例 言

1. 本書は、小郡市三沢地内における共同住宅建築に伴って、小郡市教育委員会が平成30年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 遺構の写真撮影は大城麻未、杉本岳史が行った。
3. 遺構実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、永富加奈子、山川清日、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
4. 遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
5. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
6. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
7. 本書の執筆及び編集は、杉本が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 遺構と遺物	3
1. 中世の遺構と遺物	3
(1) 掘立柱建物	3
(2) 土坑	6
(3) 溝状遺構	17
(4) その他	19
2. その他の遺構と遺物	24
(1) 土坑	24
第4章 まとめ	27
出土遺物観察表	29
写真図版	

挿図目次

第1図 三沢権道遺跡調査区位置図(S=1/5,000)	2
第2図 三沢権道遺跡4周辺の主要遺跡分布図(S=1/25,000)	2
第3図 三沢権道遺跡4全体図(S=1/100) 折り込み	
第4図 1・2号掘立柱建物実測図(S=1/60)	4
第5図 3・4号掘立柱建物実測図(S=1/60)	5
第6図 1号土坑実測図(S=1/40)	7
第7図 2・3号土坑実測図(S=1/40)	8
第8図 5・6号土坑実測図(S=1/40)	9
第9図 7号土坑実測図(S=1/40)	10
第10図 8号土坑実測図(S=1/40)	11
第11図 9号土坑実測図(S=1/40)	12
第12図 11号土坑実測図(S=1/40)	13
第13図 14号土坑実測図(S=1/40)	14
第14図 15・16号土坑実測図(S=1/40)	15
第15図 掘立柱建物・土坑出土遺物実測図(S=1/4)	16
第16図 2・3号溝状遺構実測図(S=1/60)	18
第17図 1号不明遺構出土鉄製品実測図(S=1/2)	19
第18図 4～6号溝状遺構実測図(S=1/60)	20
第19図 6号溝状遺構土層断面実測図(S=1/40)	21
第20図 溝状遺構・ビット出土遺物実測図(S=1/4)	22
第21図 出土土製品・石製品・瓦実測図(S=1/4)	23
第22図 10号土坑実測図(S=1/40)	25
第23図 12・13号土坑実測図(S=1/40)	26
第24図 両遺跡の遺構配置図(S=1/300)	28

表目次

表1 三沢権道遺跡4 出土遺物観察表	28
--------------------------	----

図版目次

図版 1 ①調査区全景 (上空から)	②調査区全景 (南東側上空から)
図版 2 ①調査区近景 (上空から)	②調査区西部 (上空から)
図版 3 ①調査区中部 (上空から)	②調査区東部 (上空から)
図版 4 ①掘立柱建物群検出状況 (東から)	⑤4号掘立柱建物完掘 (南から)
②1号掘立柱建物完掘 (東から)	⑥1号土坑土層断面 (東から)
③2号掘立柱建物完掘 (南から)	⑦1号土坑土層断面 (南から)
④3号掘立柱建物完掘 (東から)	⑧1号土坑完掘 (東から)
図版 5 ①2号土坑土層断面 (南東から)	⑤5号土坑完掘 (南から)
②2号土坑完掘 (南東から)	⑥7号土坑中ピット土層断面 (南から)
③3号土坑完掘 (東から)	⑦7号土坑完掘 (南から)
④5号土坑土層断面 (南から)	⑧9号土坑土層断面 (南西から)
図版 6 ①9号土坑完掘 (南西から)	⑤11号土坑完掘 (東から)
②10号土坑土層断面 (北から)	⑥12号土坑土層断面 (南東から)
③10号土坑完掘 (西から)	⑦12号土坑完掘 (南東から)
④11号土坑土層断面 (東から)	⑧13号土坑土層断面 (西から)
図版 7 ①13号土坑完掘 (西から)	⑤16号土坑完掘 (東から)
②14号土坑土層断面 (西から)	⑥2・3号溝状遺構完掘 (南から)
③14号土坑完掘 (東から)	⑦2・3号溝状遺構ベルト土層断面 (南から)
④15号土坑完掘 (北西から)	⑧2・3号溝状遺構北端土層断面 (南から)
図版 8 ①4号溝状遺構完掘 (西から)	⑤5・6号溝状遺構完掘 (南から)
②4号溝状遺構西側ベルト土層断面 (西から)	⑥6号溝状遺構完掘 (南から)
③4号溝状遺構東側ベルト土層断面 (西から)	⑦6号溝状遺構ベルト土層断面 (南から)
④5号溝状遺構完掘 (南から)	⑧1号不明遺構完掘 (南東から)
図版 9 出土遺物	

第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経緯

今回の開発事業に関する当該地の事前審査は、平成29年12月5日付で「埋蔵文化財の有無とその処置について（照会）」（事前審査番号17113）の申請が、地権者名で提出されたことに始まる。これを受けて小郡市教育委員会は試掘調査を実施し、掘削予定範囲342.16㎡に遺跡が存在することを確認した。地権者との協議の後、平成30年10月1日付で発掘調査に着手した。

2. 調査の経過

調査の対象としたのは、共同住宅建設に伴って遺構に影響が及ぶ342.16㎡である。現地調査は平成30年10月1日に着手し、同11月28日に終了した。調査の主な経過は以下の通りである。

平成30年10月1日：調査着手。発掘作業員を投入し、遺構検出・掘削に入る。

10月11日：4号溝状遺構掘削開始。種木先瓦片出土。

10月19日：掘立柱建物群の柱穴掘削開始。

11月9日：空中写真撮影実施。

11月28日：掘め戻し完了。道具撤収。

3. 調査の組織

平成30年度、令和元年度の三沢権道遺跡4発掘調査に関係する組織は以下のとおりである。

【小郡市教育委員会文化財課】

<平成30年度>

教育長	清武輝
教育部長	黒岩重彦
文化財課	課長 柏原孝俊
	係長 杉本岳史（調査担当）
	技師 稲村麻未（調査担当）

<令和元年度>

教育長	清武輝（～令和元年9月）
	秋永晃生（令和元年10月～）
教育部長	黒岩重彦
文化財課	課長 柏原孝俊
	係長 杉本岳史（整理担当）

第2章 位置と環境

三沢権道遺跡4(1)は、小郡市三沢字権道15、16-1合併6・15、16-1合併7・15、16-1合併22、15・16-1合併8に所在する。遺跡は、小郡市の中央を南流する宝満川の右岸、通称三国丘陵から南東に派生する中段段丘の縁辺部に位置し、北西から南東に延びる舌状台地上にある。これまで3次の調査が行われ、中世を中心とする遺構群が検出されている。

1次調査は平成4年(1992)に実施し、土坑10基、井戸2基、溝状遺構2条などを検出した。出土遺物には土器・陶磁器類の他、土錘・凝灰岩製容器などがある。13世紀中頃の7号土坑からは、天目茶碗が出土している。2次調査は平成9年(1997)年に実施し、掘立柱建物2棟、土坑1基などとともに、区画溝を検出した。時期は13世紀後半～14世紀後半である。3次調査は平成28年(2016)に実施し、土坑32基、溝状遺構5条などを検出した。時期は14世紀中頃から16世紀にかけてである。

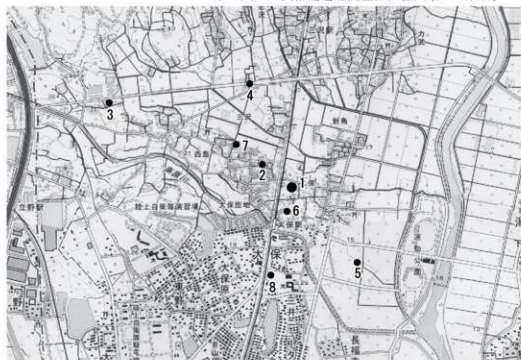
当遺跡周辺では、多くの中世の遺跡が確認されている。まず、三沢寺小路遺跡(2)では、これまでに7次の調査が実施された。注目される遺構に、3・4次調査で確認された南北及び東西の正方位に乘る区画溝がある。内部の区画は、東西71～74m、南北25m以上を測る。大きさは幅約2m、深さ約1mで、時期は14世紀と考えられる。また、2次調査では、南に隣接する三沢権道遺跡2地点へと続く区画溝も確認された。2次調査では、この溝に沿って配置された土坑群も確認されており、土壌墓の可能性が指摘

されている。西鳥遺跡3区(3)では、土坑8基・木棺墓1基などが検出された。土坑は12世紀前半から13世紀中頃に位置付けられ、木棺墓からは副葬品の鉄刀・白磁・土師器皿とともに、鉄釘14本が出土している。三沢宮ノ前遺跡2～4区(4)では、区画溝とともに、掘立柱建物群6棟が確認された。建物は、底を持つ2間×2間の総柱建物1棟と、3間×2間的大型側柱建物1棟、他に3間×1間や2間×2間の側柱建物などがある。いずれも南北に走る大型区画溝と軸を描いて配置しており、遺跡内からは井戸も検出された。時期は13世紀前半頃と考えられる。大保横柱遺跡2地点(5)では、11世紀から13世紀後半にかけて集落が営まれていた。中でも12世紀後半に南北約60m、東西は75m～100m以上に及ぶ区画溝が掘られる。この区画は13世紀前半まで機能し、その内部にはさらに小型の区画や掘立柱建物群が確認できる。大保西小路遺跡(6)では、溝や土坑とともに、鍛冶関連遺構が発見された。土坑のうち6基は地下式横穴墓と考えられ、一部13世紀の遺構もあるが、中心となるのは15世紀である。2号地下式横穴墓からは五輪塔が、10号地下式横穴墓からは青銅製拵仏が出土している。同じく墓地として、三沢畝道町遺跡(7)を挙げることができる。この遺跡では、方形周溝墓3基を検出した。これらは、弥生時代終末から古墳時代初頭の方形周溝墓を再利用して造っている。規模はいずれも一辺3～4m程度と小型で、4号周溝墓の主体部である木棺墓から青磁碗や高麗青磁が出土している。

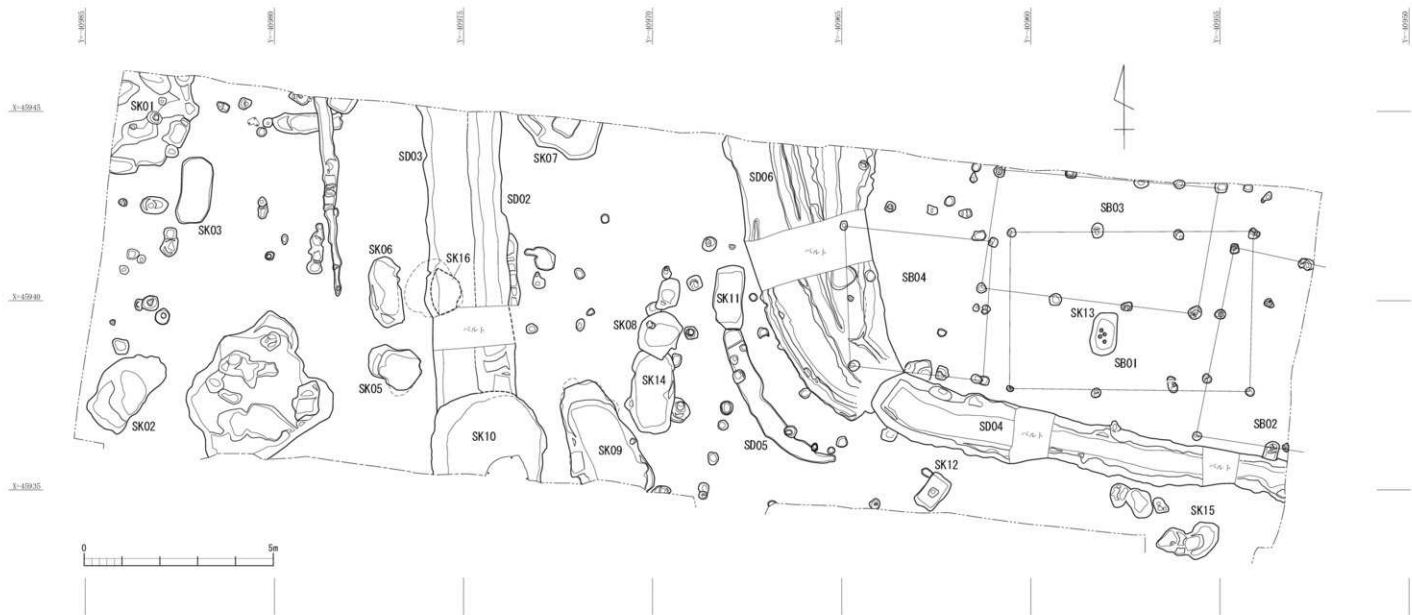
これらの遺跡の変遷を見ると、1359年にここ小郡であった九州南北朝最大の戦い「大保原(大原)合戦」が大きな画期となっている。大原小学校校庭には、亡くなった武将の塚と伝わる「善風塚(8)」もあり、この戦いが地域に与えた影響の大きさを見ることができる。



第1図 三沢横道遺跡調査区位置図(S=1/5,000)



第2図 三沢横道遺跡4周辺の主要遺跡分布図(S=1/25,000)



第3図 三沢権道遺跡4全体図 (S=1/100)

第3章 遺構と遺物

三沢権道遺跡4で検出した主な遺構は、下記の通りである。遺構の主な時代は中世で、密度は非常に高い。遺構の中で注目されるものに、掘立柱建物群がある。3×1間の比較的大型な側柱建物を中心とし、その西側にある2・3号溝状遺構は、区画溝と考えられる。この遺構構成は、周辺の三沢宮ノ前遺跡などでも見られ、中世小郡の特徴とも言えよう。土坑からは輪の羽口が出土している。周辺の遺跡からの出土例もあり、鍛冶が行われていたことの証左となる。

なお、4号溝状遺構から、古代の榿先瓦が出土した。この瓦は、傷瘍の配置から上岩田遺跡出土のものと同范と考えられる。

- 中世 … 掘立柱建物4棟、土坑12基、溝状遺構6条
- その他 … 土坑3基

1. 中世の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第4図、図版4）

調査区の東部に位置し、検出面の標高は18.6mを測る。柱配置の重なる2・3号掘立柱建物との先後関係は不明である。長軸をN-89°-Wにとる。3×1間の側柱建物で、規模は桁行6.40～6.41m、梁行4.15～4.17m、桁間1.94～2.32mを測る。柱掘り方は円形を基調とし、径は18～38cm、深さは14～66cmを測る。柱穴からの出土遺物はない。

2号掘立柱建物（第4図、図版4）

調査区の東部に位置し、検出面の標高は18.6mを測る。柱配置の重なる1・3号掘立柱建物との先後関係は不明である。長軸をN-12°-Eにとる。3×1間または2間の側柱建物と考えられるが、東側が調査区外に延びるため、全容は不明である。規模は、桁行5.08m、梁行2.40m以上、桁間1.70～1.80m、梁間2.00～2.04mを測る。柱掘り方は円形から楕円形で、径は23～44cm、深さは12～26cmを測る。柱穴からの出土遺物はない。

3号掘立柱建物（第5図、図版4）

調査区の東部に位置し、検出面の標高は18.6mを測る。柱配置の重なる1・2・4号掘立柱建物との先後関係は不明である。長軸をN-84°-Wにとる。北側の柱穴はいずれも調査区壁面に掛かり、一部完掘できていない。3×1間の側柱建物で、規模は桁行5.72～5.91m、梁行3.16～3.39m、桁間1.84～2.10mを測る。柱掘り方は円形を基調とし、径は17～38cm、深さは16～52cmを測る。

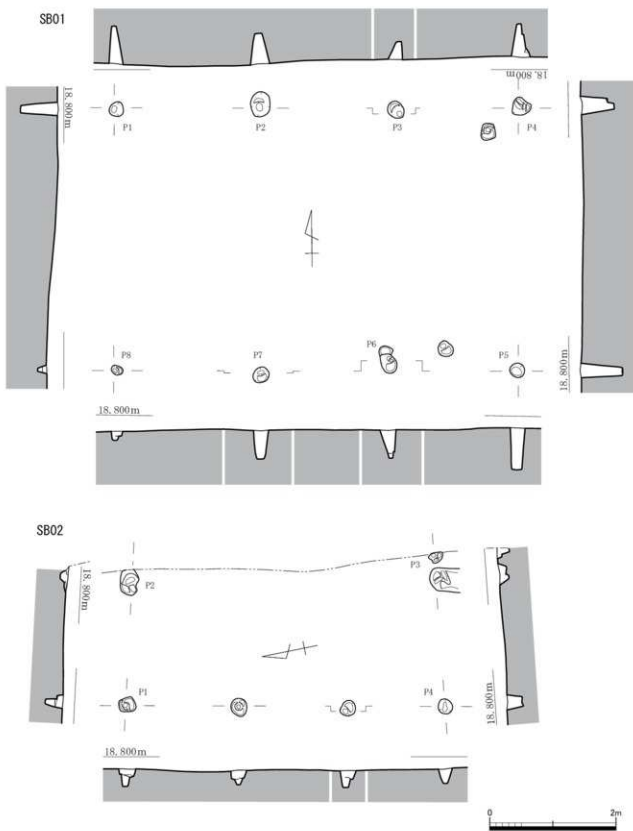
出土遺物

土器（第15図）

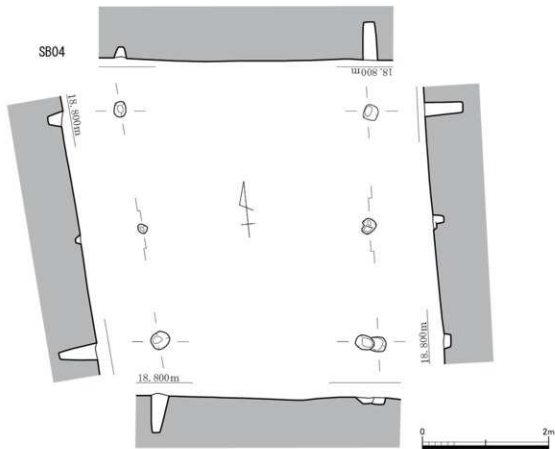
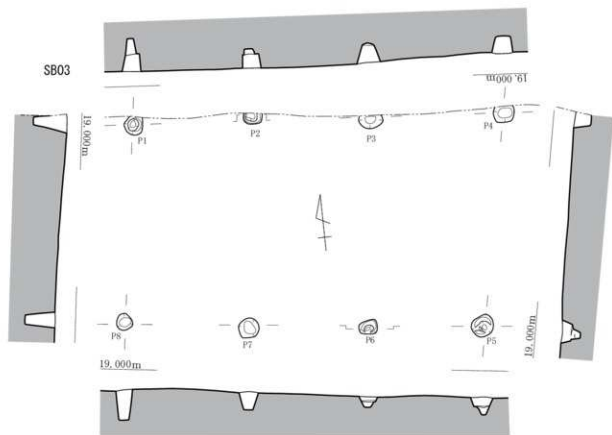
第15図1は土師器皿の小片で、復元底径8.8cmを測る。

4号掘立柱建物（第5図、図版4）

調査区の東部に位置し、検出面の標高は18.6mを測る。柱配置の重なる3号掘立柱建物との先後関係は不明である。長軸をN-1°-Wにとる。西側の3基の柱穴は6号溝状遺構と重なっており、明確には把握できなかった。2×1間の側柱建物で、規模は桁行3.67～3.69m、梁行3.49～3.92m、桁間1.77～1.92mを測る。柱掘り方は円形を基調とし、径は16～29cm、深さは9～59cmを測る。柱穴からの出土遺物はない。



第4图 1·2号掘立柱建物实测图 (S=1/60)



第5图 3·4号掘立柱建物实测图 (S=1/60)

(2) 土坑

1号土坑 (第6図、図版4)

調査区の北西端部付近に位置し、検出面の標高は18.9 mを測る。北側と西側は調査区外に延び、全容は不明である。遺構は不整形で、大きさは検出面で2.73 m以上×2.24 m以上、下端で2.21 m以上×1.60 m以上を測る。床面はなだらかだが、ビット状の掘り込みが多い。深さは最大18cmで、ビット部分はそこからさらに42cm下がる。

出土遺物

土器・磁器 (第15図、図版9)

第15図2・3は土師器の皿である。2は復元口径12.4cm、器高3.1cmを測る。3は小型で、底径5.2cmである。4・5は土師質の鍋である。4は復元口径31.0cmを測る。4は口縁部を外側につまみ出し、5は外側に粘土紐を貼り付ける。6は瓦質土器の火鉢で、外面の突帯間に印花のスタンプがある。7は青磁の皿である。

2号土坑 (第7図、図版5)

調査区の南西端部に位置し、検出面の標高は18.9 mを測る。遺構の平面は不整形で、大きさは検出面で2.35 m×1.31 m、下端で1.14 m×0.58 mを測る。南側に中段を持ち、そこからなだらかに床面に下る。深さは最大70cmで、埋土はレンズ状堆積である。

出土遺物

土器 (第15図、図版9)

第15図8は土師器の皿で、復元口径12.9cm、器高3.5cmを測る。底部は回転糸切りで、板状圧痕が残る。9は土師質の片口付摺鉢である。内面に摺目がある。

3号土坑 (第7図、図版5)

調査区の北西部に位置し、検出面の標高は18.9 mを測る。遺構は隅丸長方形を呈し、大きさは検出面で1.75 m×0.85 m、下端で1.70 m×0.78 mを測る。削平が著しく、壁面は最大7cmしか残っていない。出土遺物はない。

5号土坑 (第8図、図版5)

調査区の西部に位置し、検出面の標高は18.8 mを測る。遺構の平面は不整形で、東側が深くなる。大きさは検出面で1.46 m×1.09 m、下端で0.96 m×1.04 mを測る。西側は中段を経てなだらかに下るが、東半の壁面は一部オーバーハングする。深さは最大42cmである。

出土遺物

土器 (第15図)

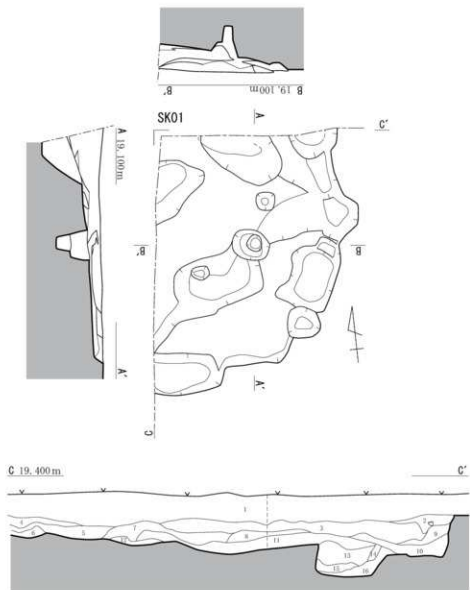
第15図10は土師質の摺鉢である。内面に摺目が残る。

6号土坑 (第8図)

調査区の西部に位置し、検出面の標高は18.8 mを測る。遺構の平面は長楕円形状を呈し、大きさは検出面で1.85 m×0.84 m、下端で1.39 m×0.56 mを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大33cmを測る。出土遺物はない。

7号土坑 (第9図、図版5)

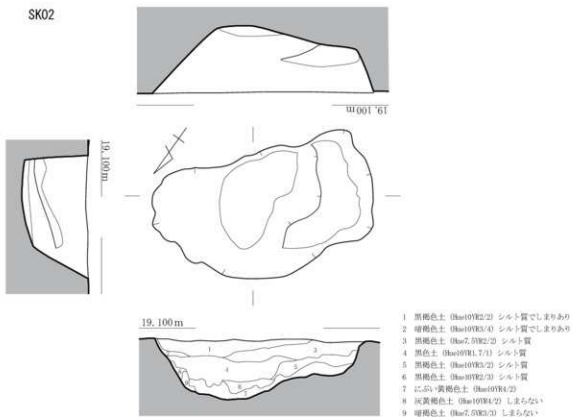
調査区中央部の北端に位置し、検出面の標高は18.8 mを測る。遺構の北半は調査区外に延びる。深いビット状の部分は別遺構の可能性が高いが、ここで併せて報告する。遺構の平面は不整形で、大きさは検出面で2.25 m以上×1.24 m以上、下端で1.74 m以上×1.10 m以上を測る。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大25cmを測る。ビット部分は大きさ62cm×57cm以上で、深さは46cmを測る。



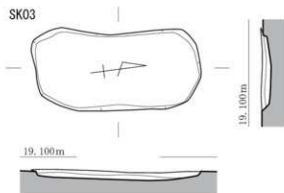
- 1 にごい・黄褐色土 (Oha09R4/2) 耕作土
- 2 暗褐色土 (Oha09R3/4) シルト質でしまりあり、土溜片を少量含む
- 3 暗褐色土 (Oha09R3/2) しまりあり、2～3cm大の黄褐色ブロック・明黄褐色ブロックを少量含む
- 4 暗褐色土 (Oha09R3/2) シルト質で均質
- 5 にごい・黄褐色土 (Oha09R4/2) シルト質
- 6 黄褐色土 (Oha09R5/4) シルト質で均質
- 7 暗灰色土 (Oha09R4/1) シルト質
- 8 にごい・黄褐色土 (Oha09R4/2) シルト質、暗灰色土を含む
- 9 暗褐色土 (Oha09R2/2) 2cm大の褐色ブロックを多く含む、固くしまる
- 10 にごい・黄褐色土 (Oha09R4/2) シルト質、しまらない
- 11 褐色土 (Oha09R4/4) シルト質で均質
- 12 褐色土 (Oha09R4/4) シルト質でしまりあり
- 13 にごい・黄褐色土 (Oha09R4/4) シルト質で固くしまる
- 14 にごい・黄褐色土 (Oha09R5/4) シルト質、暗灰色土を置く含む
- 15 褐色土 (Oha09R4/4) シルト質、暗褐色土を少量含む
- 16 黄褐色土 (Oha09R5/4) 均質、しまらない

第6図 1号土坑実測図(S=1/40)

SK02

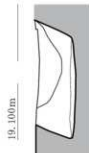
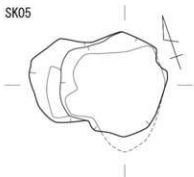


SK03



第7図 2・3号土坑実測図(S=1/40)

SK05



19.100m



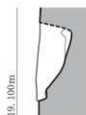
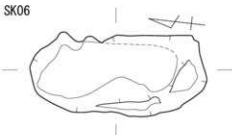
19.100m



- 1 灰白色土 (0ha30708/2) 明黄褐色ブロックを少量含む、シルト質でよくしまる
- 2 に灰・黄褐色土 (0ha30705/4) シルト質でしまりあり
- 3 キリブ土 (0ha303/1) シルト質でしまりあり
- 4 黒褐色土 (0ha237/1) シルト質
- 5 に灰・黄褐色土 (0ha30704/3) 均質、シルト質
- 6 黒色土 (0ha3082/1) シルト質、に灰・黄褐色土が混じる
- 7 に灰・黄褐色土 (0ha30704/3) シルト質



SK06



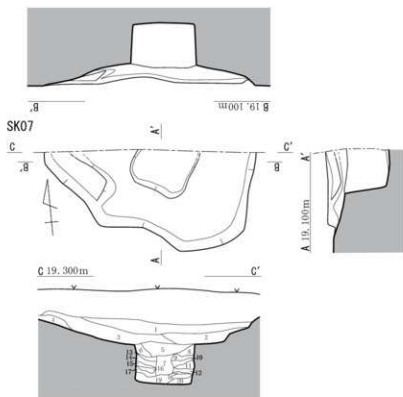
19.100m



- 1 灰黄褐色土 (0ha30704/2) 細い砂質土、1.5m入の浅黄褐色ブロックを少量含む
- 2 に灰・黄褐色土 (0ha30705/4) 1層に混入しまりあり
- 3 に灰・黄褐色土 (0ha30706/4) 1・2層に混入
- 4 に灰・黄褐色土 (0ha30704/3)
- 5 に灰・黄褐色土 (0ha30704/3) 均質、シルト質
- 6 灰黄褐色土 (0ha30704/2) シルト質でしまりあり
- 7 浅黄褐色土 (0ha30706/4)
- 8 黒褐色土 (0ha3082/2) シルト質
- 9 浅黄褐色土 (0ha30706/4) 第7層に近い



第8図 5・6号土坑実測図 (S=1/40)



- 1 黒褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質
- 2 黒褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質、3cm大の褐色ブロック・灰褐色ブロックを少量含む
- 3 黒褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質でしまりあり
- 4 にごい・黄褐色土 (Oha10VE5/4) 3層→地山質土
- 5 黒色土 (Oha10VE2/1) 均質、シルト質でしまりあり
- 6 灰褐色土 (Oha10VE3/1) 均質、シルト質でしまりあり
- 7 灰黄褐色土 (Oha10VE3/2) 柱痕が、シルト質
- 8 灰黄褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質で固くしまる
- 9 にごい・黄褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質で固くしまる
- 10 黒褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質で固くしまる
- 11 明黄褐色土 (Oha10VE6/6) しまりあり
- 12 暗褐色土 (Oha10VE3/4)
- 13 黒褐色土 (Oha10VE3/1) シルト質でしまりあり
- 14 黒色土 (Oha10VE2/1) シルト質でしまりあり
- 15 灰黄褐色土 (Oha10VE3/2) シルト質で固くしまる
- 16 黒褐色土 (Oha10VE1/1) 均質、しまりあり
- 17 黒褐色土 (Oha10VE4/2)
- 18 黒色土 (Oha10VE1/1) 均質
- 19 黒色土 (Oha10VE1/1)
- 20 黒色土 (Oha10VE1/1) 粘土質の褐色ブロックを多く含む



第9図 7号土坑実測図 (S=1/40)

土坑状部分の埋土はレンズ状堆積で、ビット部分は柱痕と裏込土が確認できる。4号溝状遺構から優先瓦が出土したことを考えると、このビットは古代の掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。

出土遺物

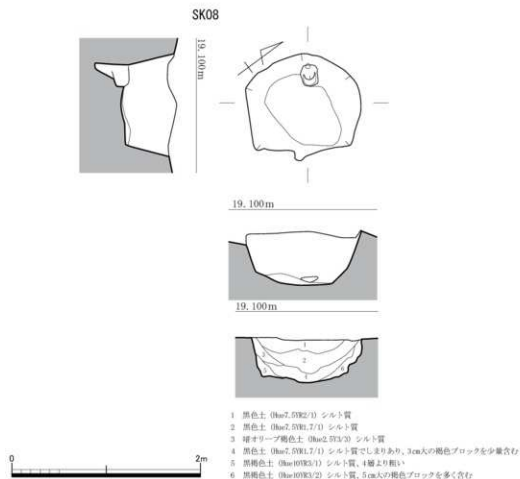
土器 (第15図)

第15図11は土師器の皿で、復元口径14.0cm、器高2.6cmを測る。底部裏面は回転糸切りで、板状圧痕が残る。

8号土坑 (第10図)

調査区の中央部付近に位置し、検出面の標高は188mを測る。14号土坑を切る。遺構の平面は楕円形状を呈し、大きさは検出面で1.19m×1.06m、下端で0.90m×0.59mを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大54cmである。床面の北西側に小型のビットを1基有する。

出土遺物



第10図 8号土坑実測図(S=1/40)

土器 (第15図)

第15図12は土師器の皿で、底部裏面は回転糸切りである。

9号土坑 (第11図、図版5・6)

調査区中央部の南端に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。南側は調査区外へ続く。遺構の平面は隅丸長方形形状を呈し、大きさは検出面で3.34m以上×1.90m、下端で1.69m以上×1.13mを測る。北から西側に中段を有し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。深さは最大86cmである。埋土はきれいなレンズ状堆積で、第9層中から15～20cm大の被熱した石が18個出土した。

出土遺物

土器 (第15図)

第15図13は土師質の羽釜である。他にも土師器皿の小片などが出土した。

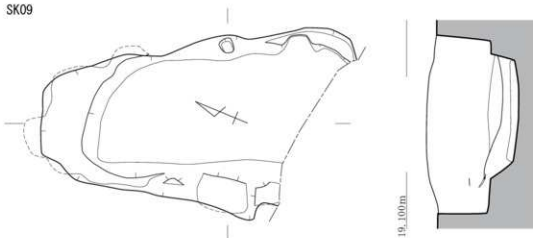
石器 (第21図、図版9)

第21図3は磨石である。長さ13.0cm、幅10.7cm、厚さ9.3cmを測る。4は台石片である。現状で残存長さ9.0cm、幅11.1cm、厚さ7.8cmを測る。

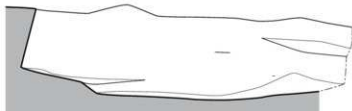
11号土坑 (第12図、図版6)

調査区の中央部に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。遺構の平面はきれいな長方形形状を呈し、大きさは検出面で1.68m×0.76m、下端で1.35m×0.70mを測る。壁面は直線的に立ち上がり、深さは最大40cmである。出土遺物は土師器の小片のみで、図示していない。

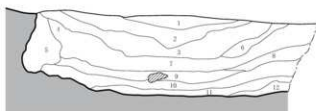
SK09



19.100m



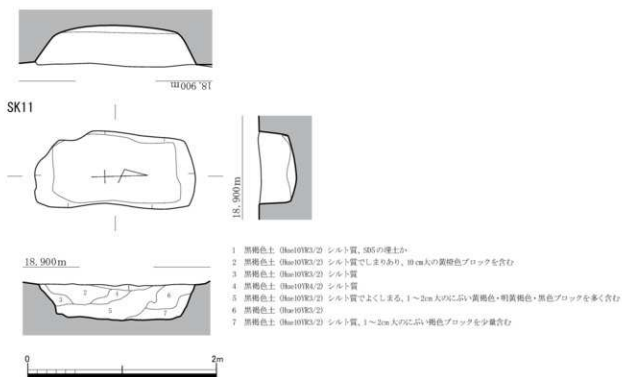
19.100m



- 1 灰黄色土 (Ika-10184/2) シルト質でよくしまる
- 2 黒褐色土 (Ika-10183/2) シルト質でよくしまる
- 3 黒褐色土 (Ika-2.512/2) シルト質
- 4 黒褐色土 (Ika-10183/2) シルト質
- 5 黒褐色土 (Ika-10183/1) シルト質、4～5cm 大の黄褐色ブロックを少量含む
- 6 2.5㍉・黄褐色土 (Ika-10184/3) シルト質
- 7 灰黄色土 (Ika-2.5186/2) 砂利質で固くしまる、3cm 大の2.5㍉・黄色ブロックを少量含む
- 8 黒褐色土 (Ika-10183/1) シルト質
- 9 黒色土 (Ika-10182/1) シルト質、15～20cm 大の花崗岩を多く含む
- 10 暗灰黄色土 (Ika-2.5184/2) 7層に近い
- 11 黒褐色土 (Ika-2.513/2) 第10層に近い
- 12 黒褐色土 (Ika-10182/2) シルト質



第11図 9号土坑実測図(S=1/40)



第12図 11号土坑実測図 (S=1/40)

14号土坑 (第13図、図版7)

調査区の中央部に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。8号土坑に切られる。遺構の平面はきれいな長楕円形状を呈し、大きさは検出面で2.20m×1.14m、下端で1.91m×0.97mを測る。壁面は直線的に立ち上がり、深さは最大85cmである。

出土遺物

磁器 (第15図)

第15図14は青磁の碗である。外面に蓮弁文が見られる。

土製品 (第21図)

第21図1は輪の羽口の小片である。残存長3.8cmを測る。

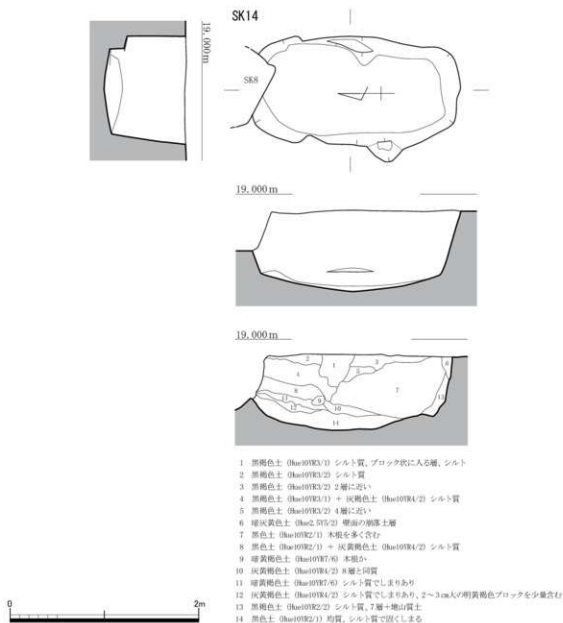
15号土坑 (第14図、図版7)

調査区の南東端部付近に位置し、検出面の標高は18.6mを測る。遺構の平面は不整形で、大きさは検出面で1.38m×1.02m、下端で0.38m×0.31mを測る。床面は中央部と東部が深く、深さは最大35cmである。

出土遺物

土器 (第15図)

第15図15~17は土師器の皿である。15は大型で、復元口径12.2cm、器高3.3cmを測る。16は復元口径10.1cm、器高1.9cmを測る。17は小型で、復元口径7.8cm、器高1.6cmを測る。いずれも底部裏面は回転糸切りである。



第13図 14号土坑実測図(S=1/40)

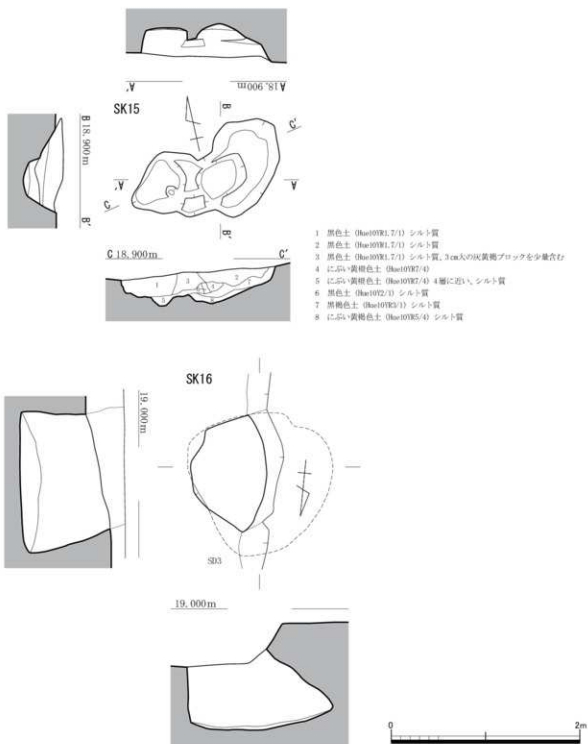
16号土坑 (第14図、図版7)

調査区の西部に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。3号溝状遺構に切られる。遺構の平面は楕円形状を呈し、大きさは検出面で1.23m×0.92m、下端で1.53m×1.51mを測る。東半の壁面は内傾して立ち上がり、深さは最大108cmである。

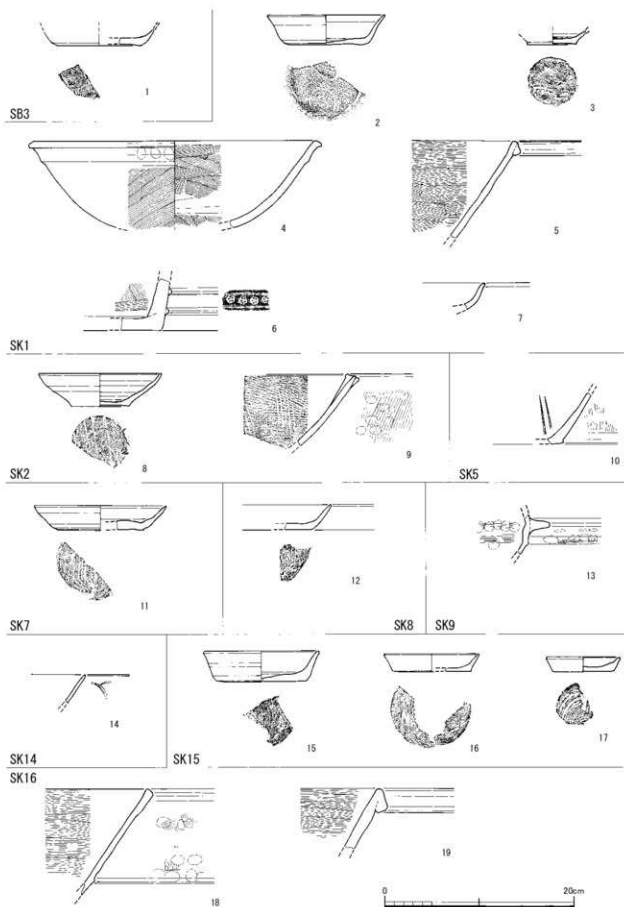
出土遺物

土器 (第15図)

第15図18・19は土師質の鍋である。18は胴部外面下位に突帯状の高まりを有する。19は口縁部に外側から粘土紐を貼り付け、肥厚させる。



第14図 15・16号土坑実測図(S=1/40)



第15图 掘立柱建物・土坑出土遺物実測図(S=1/4)

(3) 溝状遺構

1号溝状遺構 (第3図)

調査区の西部に位置し、検出面の標高は18.9mを測る。北側は調査区外に延びる。7号ピットを切る。遺構は、現状で長さ5.30m以上、幅0.42mを測り、深さは最大11cmである。出土遺物はない。

2号溝状遺構 (第8図、図版7)

調査区の中央やや西側に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。南北とも調査区外に延び、全容は不明である。3号溝状遺構を切り、10号土坑に切られる。走行方位は、N-4°-Wを測る。遺構は、現状で長さ9.09m以上、幅0.93mを測り、深さは最大77cmである。床面は水平に近いが、ベルトの南側で一段深くなる部分がある。埋土はレンズ状の自然堆積と考えられる。

出土遺物

土器 (第20図、図版9)

第20図1～7は土師器の皿である。1～5は口径11.2～13.2cmとやや大型で、体部から口縁部は直線的に立ち上がる。6・7は口径7.4・7.7cmと小型で、口縁部はやや内湾する。1・5・6は内面に油煙が残り、灯明皿として利用されたと考えられる。底部裏面はいずれも回転糸切りである。8は瓦質土器の片口付摺鉢で、内面に摺目が残る。9は土師質の鍋で、口縁部は外側から粘土紐を貼り付け、肥厚する。10は土師器の手捏ね碗である。復元口径7.9cm、器高4.9cmを測る。内外面ともに指頭痕が残る。

土製品 (第21図、図版9)

第20図2は輪の羽口である。残存長8.0cmを測る。全体的に強く被熱され、鉄分の付着が著しい。

瓦 (第21図、図版9)

第21図7は平瓦である。側端部1面が残る。側端部の調整は、ヘラ切り後ナデである。

3号溝状遺構 (第16図、図版7)

調査区の中央やや西側に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。南北とも調査区外に延び、全容は不明である。16号土坑を切り、10号土坑・2号溝状遺構に切られる。遺構は南北に直線的に延び、走行方位はN-2°-Wを測る。現状で長さ8.75m以上、幅1.24m以上を測り、深さは最大55cmである。床面は水平に近く、壁面もなだらかに立ち上がる。埋土はレンズ状の自然堆積と考えられる。

出土遺物

土器 (第20図、図版9)

第20図11は土師器の皿で、復元口径11.1cm、器高2.7cmを測る。一部ススの付着が見られ、灯明皿として利用された可能性が考えられる。12は土師質の鍋で、口縁部は外側から粘土紐を貼り付け、肥厚する。

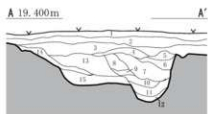
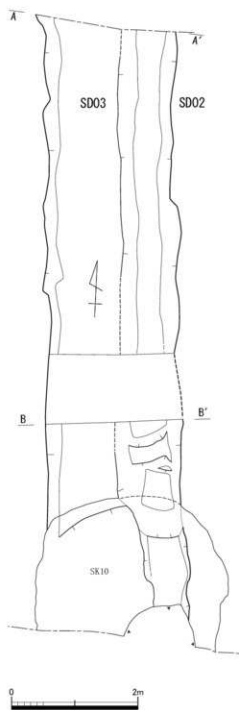
4号溝状遺構 (第18図、図版8)

調査区の東部に位置し、検出面の標高は18.6mを測る。西側は6号溝状遺構を切り、東側は調査区外へ続く。遺構は東西に直線的に延び、走行方位はN-80°-Wを測る。西端部のみやや北側に曲がる。長さは、現状で11.30m以上を測る。東部はやや細くなり、幅0.86m、深さ0.68m、西部は広く、幅1.64m、深さ1.06mを測る。埋土中から比較的多くの遺物が出土した。

出土遺物

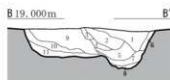
土器 (第20図)

第20図13は瓦質土器の摺鉢である。復元底径13.8cmを測る。14は瓦質土器の火鉢である。外面の突帯間に四つ菱の印花を持つ。15・16は土師質の鍋である。16は復元口径44.4cmを測る。いずれも口縁部は、外側から粘土紐を貼り付ける。



A-A'

- 1 埴灰黄色土 (Hac2.574/2) 表土
 - 2 黒褐色土 (Hac2.573/2) 木根が赤い、しほりあり
 - 3 埴灰黄色土 (Hac2.574/2) シルト質
 - 4 埴褐色土 (Hac3093/3) シルト質
 - 5 黒色土 (Hac10913/1) シルト質
 - 6 黒褐色土 (Hac3093/2) シルト質、黄褐色を少量含む
 - 7 灰黄褐色土 (Hac3093/4/2) シルト、土器片を含む
 - 8 黒褐色土 (Hac10932/2) シルト質
 - 9 黒褐色土 (Hac10932/2) シルト質
 - 10 黒色土 (Hac10932/1) シルト質
 - 11 黒褐色土 (Hac3093/2) シルト質
 - 12 埴灰黄色土 (Hac10934/1) 粘質土と埴灰黄色の砂質土の互層
 - 13 埴褐色土 (Hac10932/3) シルト質、5cm大の黄褐色ブロックを少量含む
 - 14 に近い黄褐色土 (Hac10934/3) シルト質
 - 15 灰黄褐色土 (Hac3093/4/2) シルト質
- ※4～12層は2号溝状遺構の埋土、13～15層は3号溝状遺構の埋土



B-B'

- 1 灰白色土 (Hac2.576/2) 砂利質
 - 2 埴灰黄色土 (Hac2.574/2) シルト質
 - 3 埴灰黄色土 (Hac2.574/2) 均質、シルト質
 - 4 に近い黄褐色土 (Hac3093/5/4) 均質、シルト質
 - 5 黒褐色土 (Hac10933/2) シルト質
 - 6 黒色土 (Hac10934/4) 均質、シルト質
 - 7 黒褐色土 (Hac2.573/2) シルト質
 - 8 に近い黄褐色土 (Hac3093/5/4) シルト質
 - 9 黒褐色土 (Hac2.573/1) シルト質、8×16cm大の黄褐色ブロックを含む
 - 10 灰黄褐色土 (Hac10934/2) 均質、シルト質
 - 11 に近い黄褐色土 (Hac2.576/4)
- ※9～8層は2号溝状遺構の埋土、9～11層は3号溝状遺構の埋土

第16図 2・3号溝状遺構実測図(S=1/60)

瓦 (第21図、図版9)

第21図5は古代の榿先瓦である。残存は1/3程度で、残存長8.6cmを測る。上岩田遺跡出土の榿先瓦と同じ范傷が見られ、同范品と考えられる。6は丸瓦で、側端部が1面残る。残存長10.5cmを測り、凹面には繩磨痕が見られる。

5号溝状遺構 (第18図、図版8)

調査区中央部に位置し、検出面の標高は18.8mを測る。遺構の北側は11号土坑を切る。遺構の形状は弧を描くが、隣接する大型の6号溝状遺構と並行し、関連性が想定される。大きさは、現状で長さ4.50m以上、幅0.64mを測る。遺構の残りが悪く、深さは最大9cmである。

出土遺物

土器 (第20図)

第20図17は土師器の皿で、復元底径5.6cmを測る。内面に油煙が見られ、灯明皿と考えられる。

6号溝状遺構 (第18・19図、図版8)

調査区中央部やや東に位置し、検出面の標高は18.7mを測る。南端部を4号溝状遺構に切られ、北側は調査区外に続く。検出面の長さは7.96m以上を測り、幅は北側調査区際が最大で3.70mを測る。床面は凹凸が著しく、小さな流れが何度も変遷した状況が見て取れる。土層断面を観察すると、東側から流れが徐々に西側に移る様子が確認できる。最も深いのは中央部で、深さは最大87cmを測る。西端は非常に浅く、深さは最大31cmである。大型の遺構だが、出土遺物は非常に少ない。

出土遺物

土器 (第20図)

第20図18は土師質の鍋である。口縁部は外側から粘土紐を貼り付け、肥厚する。

(4) その他

調査区内では約70基のピットを確認した。遺物を持つピットは少ないが、いくつかは中世の遺物が出土しており、ここで報告する。また、正確不明な大型の1号不明遺構からも遺物が少量出土している。ここでは、鉄製品を報告する。

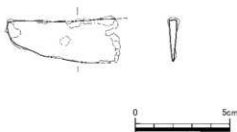
出土遺物

土器 (第20図)

第20図19は4号ピット出土の瓦質土器の鉢である。20は9号ピット出土の青磁碗で、高台部径6.0cmを測る。

鉄製品 (第17図、図版9)

第17図1は鉄製の刀子である。現状で、長さ6.0cm、幅2.3cm、厚さ4mmを測る。



第17図 1号不明遺構出土鉄製品実測図(S=1/2)

A 18,900m A'



【A-A'】

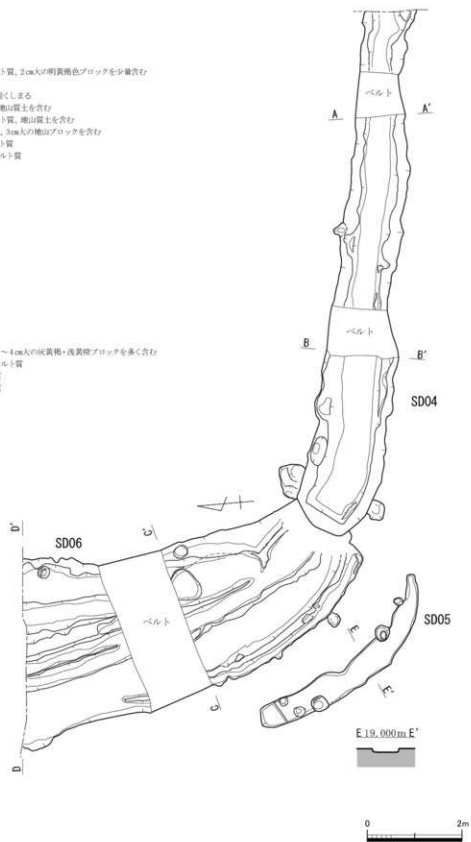
- 1 濃い黄褐色土 (Ihae10R5/3) シルト質, 2cm大の明黄褐色ブロックを少量含む
- 2 黒褐色土 (Ihae10R3/1) シルト質
- 3 褐色土 (Ihae10R4/1) シルト質で固くしまる
- 4 黒褐色土 (Ihae10R3/1) シルト質, 地山質土を含む
- 5 濃い黄褐色土 (Ihae10R5/3) シルト質, 地山質土を含む
- 6 灰黄褐色土 (Ihae10R4/2) シルト質, 3cm大の地山ブロックを含む
- 7 黒褐色土 (Ihae10R3/2) 均質, シルト質
- 8 灰黄褐色土 (Ihae10R4/2) 均質, シルト質

B 18,900m B'



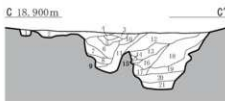
【B-B'】

- 1 黒褐色土 (Ihae10R3/1) シルト質
- 2 褐色土 (Ihae10R4/1) シルト質
- 3 褐色土 (Ihae10R4/1) シルト質, 2~4cm大の灰黄褐色・灰黄緑ブロックを多く含む
- 4 灰黄褐色土 (Ihae10R4/2) 均質, シルト質
- 5 灰黄褐色土 (Ihae10R4/2) シルト質
- 6 灰黄褐色土 (Ihae10R4/2) シルト質



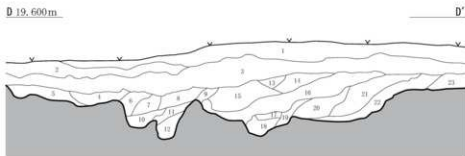
第18図 4~6号溝状遺構実測図 (S=1/60)

SD06 土層



[C-C']

- 1 黒褐色土 (Hae1019R2/2) 均質, シルト質
- 2 黒褐色土 (Hae1019R2/2)
- 3 に近い黄褐色土 (Hae1019R4/3) シルト質
- 4 暗褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質
- 5 明黄褐色土 (Hae1019R6/6) 均質, シルト質
- 6 暗褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質
- 7 黒褐色土 (Hae1019R2/2) シルト質
- 8 に近い黄褐色土 (Hae1019R4/4) 均質, 粘性が高い
- 9 黒色土 (Hae1019R2/1) シルト質
- 10 黒褐色土 (Hae1019R2/2) 均質, シルト質
- 11 黒褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質
- 12 に近い黄褐色土 (Hae1019R4/3) シルト質
- 13 黄褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質
- 14 暗褐色土 (Hae1019R3/3) 均質, シルト質
- 15 黄褐色土 (Hae1019R6/6) ブロック状の層, 粘性が高い
- 16 黄褐色土 (Hae1019R5/4) ブロック状の層, 粘性が高い
- 17 黒褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質, 暗褐色ブロックを含む
- 18 黒褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質, 褐色ブロックを少量含む
- 19 黒褐色土 (Hae1019R3/3)
- 20 黄褐色土・灰黄褐色土・明褐色土の互層状, 砂質土
- 21 浅黄褐色土 (Hae2.03R7/4) 砂質土

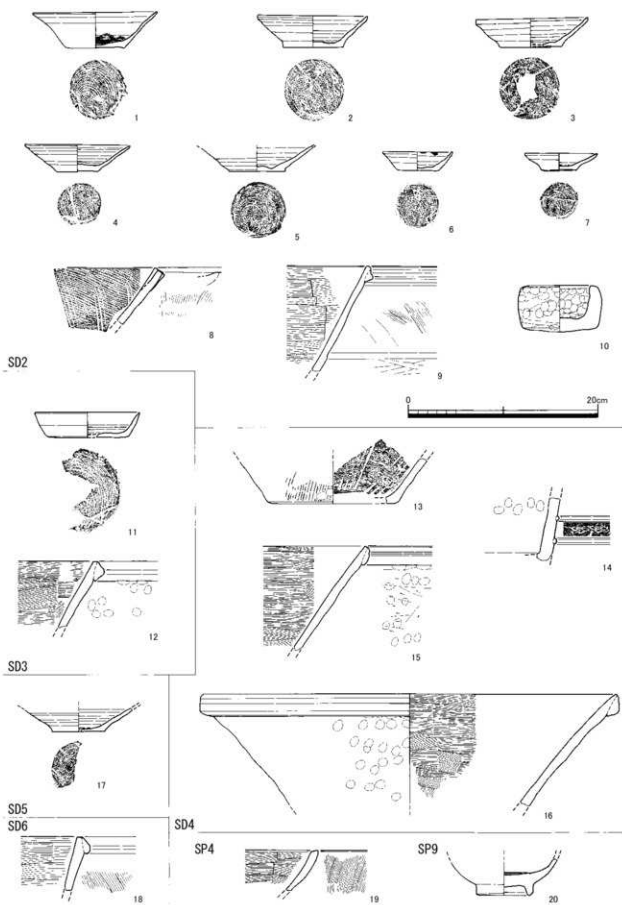


[D-D']

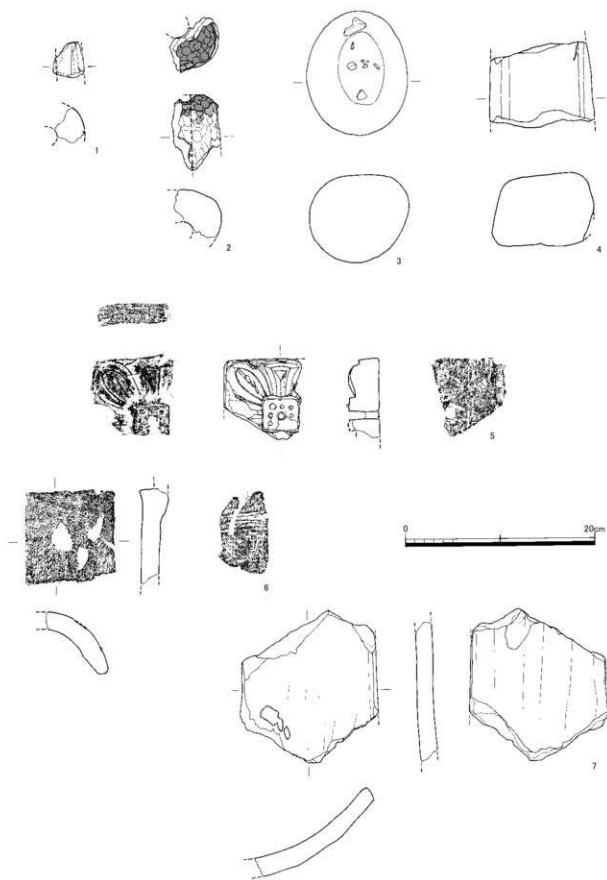
- 1 灰黄褐色土 (Hae1019R4/2) 表層
- 2 黒褐色土 (Hae1019R3/2) 1層に近い
- 3 に近い黄褐色土 (Hae1019R5/3) シルト質
- 4 褐色土 (Hae1019R4/4) シルト質
- 5 褐色土 (Hae1019R4/4) シルト質
- 6 に近い黄褐色土 (Hae1019R5/3) シルト質
- 7 に近い黄褐色土 (Hae1019R5/3) 均質, シルト質
- 8 に近い黄褐色土 (Hae1019R5/4) 均質, シルト質
- 9 に近い黄褐色土 (Hae1019R4/3) シルト質
- 10 灰黄褐色土 (Hae1019R4/2) 均質, シルト質
- 11 灰黄褐色土 (Hae1019R4/2) 5cmの明黄褐色ブロックを大量に含む
- 12 黒褐色土 (Hae1019R2/2) シルト質
- 13 に近い黄褐色土 (Hae1019R5/3) シルト質
- 14 に近い黄褐色土 (Hae1019R5/3) シルト質
- 15 灰黄褐色土 (Hae1019R4/2) シルト質
- 16 に近い黄褐色土 (Hae1019R4/3) シルト質, 1~5cm大の明黄褐色ブロックを多く含む
- 17 暗褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質
- 18 黒褐色土 (Hae1019R2/2) シルト質
- 19 に近い黄褐色土 (Hae1019R4/3) シルト質
- 20 黒褐色土 (Hae1019R2/2) シルト質, 2cm大の褐色ブロックを少量含む
- 21 黒褐色土 (Hae1019R3/3) シルト質
- 22 黒褐色土 (Hae1019R2/2) 均質, シルト質
- 23 黒褐色土 (Hae1019R2/2)



第19図 6号溝状遺構土層断面実測図 (S=1/40)



第20図 溝状遺構・ピット出土遺物実測図(S=1/4)



第 21 图 出土土製品・石製品・瓦実測図 (S=1/4)

3. その他の遺構と遺物

(1) 土坑

10号土坑 (第22図、図版6)

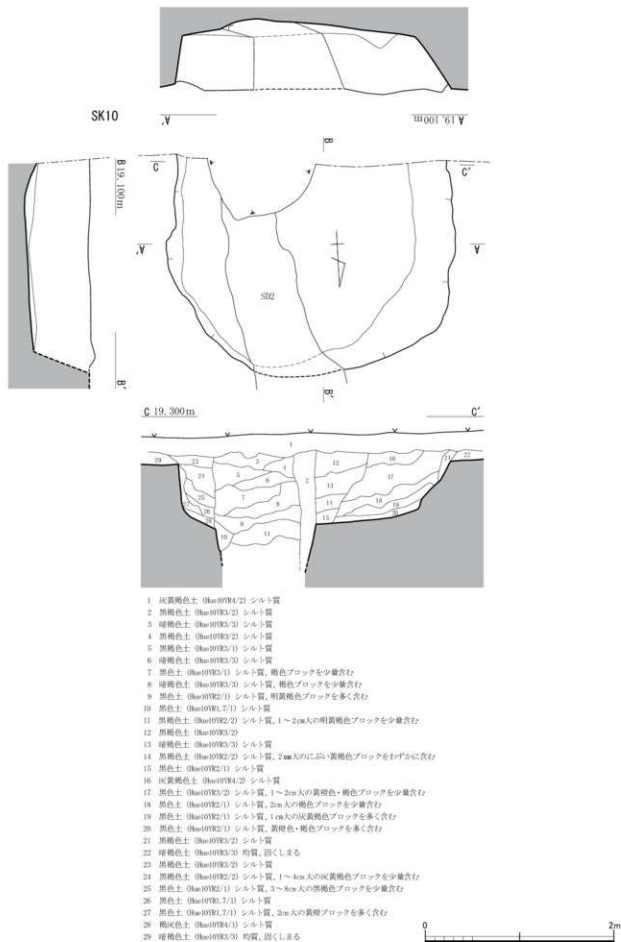
調査区中央やや西部に位置し、検出面の標高は18.8 mを測る。2・3号溝状遺構を切り、新しい井戸に切られる。南側は調査区外に延びる。遺構は楕円形状を呈し、大きさは検出面で3.04 m × 2.23 m以上、下端で2.43 m × 1.97 m以上を測る。深さは最大70cmである。埋土はレンズ状堆積で、出土遺物はない。

12号土坑 (第23図、図版6)

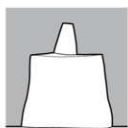
調査区東部に位置し、検出面の標高は18.7 mを測る。遺構は長方形形状を呈し、主軸方位はN-39°-Eを測る。遺構の性格は、落とし穴状遺構と考えられる。大きさは、検出面で1.00 m × 0.61 m、下端で0.76 m × 0.50 m、深さ78cmを測る。床面に大きさ24cm × 22cm、深さ31cmのピットを持つ。埋土はレンズ状堆積で、出土遺物はない。

13号土坑 (第23図、図版6・7)

調査区東部に位置し、検出面の標高は18.6 mを測る。遺構は長方形形状を呈し、主軸方位はN-9°-Eを測る。遺構の性格は、落とし穴状遺構と考えられる。大きさは、検出面で1.12 m × 0.71 m、下端で0.79 m × 0.46 m、深さ77cmを測る。床面に直径10cm程度、深さ15～20cmの小ピット4基を持つ。埋土はレンズ状堆積で、出土遺物はない。

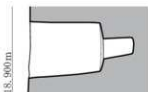


第 22 図 10 号土坑実測図 (S=1/40)



0006 81

SK12

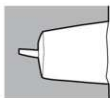


18,900m

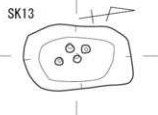
18,900m



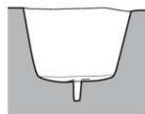
- 1 黒色土 (ha010K2/1) シルト質でまろく
- 2 黄褐色土 (ha02.014/1) シルト質、浅黄褐色土を多く含む
- 3 黄褐色土 (ha02.014/1) 2層に改い
- 4 黒色土 (ha010K1.7/1) シルト質
- 5 黒色土 (ha010K2/1) シルト質
- 6 オリーブ黒色土 (ha030K3/2) シルト質でしまりあり
- 7 黒色土 (ha010K1.7/1) シルト質



18,900m



18,900m



18,900m

- 1 黒色土 (ha010K2/1) シルト質でしまりあり
- 2 黒褐色土 (ha010K3/1) シルト質でしまりあり
- 3 オリーブ褐色土 (ha02.014/2) 1+2層
- 4 オリーブ褐色土 (ha02.014/3) 3層に改い、シルト質
- 5 黒色土 (ha010K1.7/1) シルト質
- 6 黒色土 (ha010K2/1) シルト質でしまりあり
- 7 黒色土 (ha010K2/2) 6層+地層に質上
- 8 黄褐色土 (ha02.018/3) 均質、シルト質
- 9 黄褐色土 (ha010K3/1) シルト質、しまらない
- 10 黄褐色土 (ha02.018/3) シルト質



0 2m

第 23 図 12・13 号土坑実測図 (S=1/40)

第4章 まとめ

三沢権道遺跡4で検出した主な遺構は、掘立柱建物4棟、土坑15基、溝状遺構6条である。出土遺物は少量だが、そのほとんどが13世紀後半から15世紀代のもので、周辺の遺跡群と時期的に一致する。出土遺物のうち土師器の皿に着目すると、立ち上がりが比較的直線的で小さい一群と、大きく外に開く一群に分けることができる。やや古相を示す前者が出土した遺構として、3号掘立柱建物、7・8・15号土坑、3号溝状遺構があり、やや新相を示す後者が出土した遺構として、1・2号土坑、2・5号溝状遺構が挙げられる。

今回検出した遺構で注目されるのは、掘立柱建物群と区画溝と考えられる2・3号溝状遺構である。掘立柱建物はいずれも側柱建物で、1号は3間×1間で、身舎面積26.8㎡、3号は3間×1間で、身舎面積19.1㎡を測る。2号は3間×2間の可能性が考えられ、4号についてはその柱配置から、建物になるか明確でない。2・3号溝状遺構は、出土遺物からも、遺構の切り合いからも、3号が先行し、その埋没後に2号が掘削されたことが分かる。出土遺物より、3号掘立柱建物と3号溝状遺構の同時性が推測される。この掘立柱建物群と区画溝というセットは、市内の中世遺跡で他にも見られるものであり、その状況を比較してみたい。

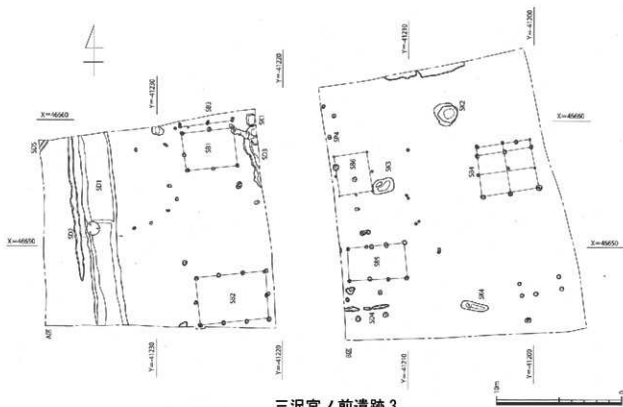
三沢宮ノ前遺跡3地点は、当遺跡から北北西約800mに位置する。県道本郷基山線新設工事に伴い、平成24年(2012)に調査された。検出した遺構は、中世の掘立柱建物6棟、土坑4基、溝状遺構3条などである。掘立柱建物の内容は、3間×2間の側柱建物が1棟、2間×1間の側柱建物が1棟、2間×2間で北側に庇を持つ総柱建物が1棟等である。西側に南北に走る1号溝状遺構は、その規模や走行方向から掘立柱建物に伴う区画溝と考えられる。

表 三沢権道遺跡4と三沢宮ノ前遺跡3の掘立柱建物の比較

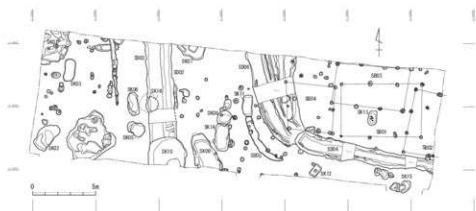
番号	長軸方位	間数	規模(単位:m)				備考		
			桁間	梁間	梁行	身舎面積			
三沢権道4	1	3×1	1.94~2.32	-	6.40~6.41	4.15~4.17	26.8㎡	側柱	
	2	3×2?	1.70~1.80	2.00~2.04	5.08	2.40以上	-	側柱	
	3	3×1	1.84~2.10	-	5.72~5.91	3.16~3.39	19.1㎡		
	4	2×1	1.77~1.92	-	3.67~3.69	3.49~3.92	13.7㎡	側柱	
三沢宮ノ前3	1	N-84-E	2×1	1.86~2.14	-	4.01~4.02	2.98~3.06	12.1㎡	側柱
	2	N-84-E	3×2	1.74~1.92	1.85~1.94	5.41~5.54	3.79~3.80	20.8㎡	側柱
	3	-	2×-	2.02~2.14	-	4.16	-	-	
	4	N-81-E	2×2	2.19~2.30	1.51~1.77	4.46~4.59	3.25~3.28	14.8㎡	総柱、庇
	5	N-84-E	3×1	1.42~1.61	-	4.50~4.61	2.57~2.80	12.2㎡	
	6	N-9-W	2×2	1.50~1.60	1.31~1.33	3.10~3.12	2.64~2.68	8.3㎡	側柱

以上を見ると、これらの集落では建物の中心は3間×1間または3間×2間の側柱建物で、小型の建物では2間×1間の側柱建物が存在することが分かる。三沢宮ノ前遺跡3地点では2間×2間の総柱建物が検出されたが、今回の調査では調査面積が狭いこともあり、検出できていない。一方区画溝は、三沢宮ノ前遺跡3地点では1号溝状遺構が該当し、最大幅2.59m、最大の深さ59cmを測る。今回検出した3号溝状遺構は、2号溝状遺構に切られているものの、最大幅は推定で2m以上、最大の深さは55cmである。

このように、両遺跡では建物の規模・形態、区画溝の規模ともに類似しており、小都市中部における13~14世紀の拠点集落の典型例を示すと考えられる。今後さらにこのような発見が続けば、「大保原合戦」で有名な中世小郡の実像を掴むことが可能となろう。調査の蓄積が期待される。



三沢宮ノ前遺跡 3



三沢権道遺跡 4

第 24 図 両遺跡の遺構配置図 (S=1/300)

三沢権道遺跡4 出土遺物観察表

＜土器・磁器等＞

法量=口 口径 高 器高 底 底径 高台 高台部径

出土遺物番号	器名	器種	法量(底元径)cm	色調	胎土	焼成	痕跡・調整技法	備考
SB3	19-1	土・皿	残存高1.6 底(12.4) 高3.1 底(7.8)	にぶい焼	横良 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	
SK1	2	土・皿	口(12.4) 底(7.8)	にぶい焼	密 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・内中央付近は回転付?後付?	
	3	土・皿	残存高1.4 底(3.2)	焼	密 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	
	4	土師質・鉢	口(21.0) 残存高9.1	にぶい黄焼	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口→体部上縁33?付 物は?ナ?	体部外面に突帯(条) 内面にコゴ 外面にスス
	5	土師質・鉢	残存高10.2	にぶい焼	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	内?ナ? 物は33?付?	体部外面にスタンプ?
	6	瓦質・火鉢	残存高5.1	灰白	やや粗 径2mm以下の砂粒をやや多く含む	良	内面と底面の境付近は回転付? 内?ナ? 体・外面粗?ナ? 底・内?ナ?	体部外面にスタンプ?
	7	黄緑・皿	残存高2.8	緑黄焼	横織 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	堅緻	口内縁部	
	8	土・皿	口(12.9) 内(12.9) 高3.5 底(8.1)	内(12.9) 外(12.9) にぶい黄焼	ほぼ密 径3mm以下の砂粒を少し含む	良	底・内面粗糸切り 物は回転付?	底面外面に縁状凸
9	土師質・片口付磨鉢	残存高7.6	内黄焼 外黄灰	やや粗 径2mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口33?付? 内?ナ?後縁目 外?ナ?後縁目	口縁部に黒斑	
SK5	10	土師質・磨鉢	残存高5.4	内黄焼 外灰白	粗 径3mm以下の砂粒を多く含む	良	内黄目 体・外面粗?ナ? 底・内面粗?ナ? 口33?付?	外面にスス
SK7	11	土・皿	口(14.0) 高2.6 底(9.2)	黄黄焼	ほぼ密 径2mm以下の砂粒を少し含む	良	底・内面粗?ナ? 底・外面粗糸切り 物は回転付?	底面外面に縁状凸
SK8	12	土・皿	残存高2.7	にぶい焼	ほぼ密 径2mm以下の砂粒を少し含む	良	底・内面粗糸切り 物は回転付?	
SK9	13	土師質・羽釜	残存高4.2	内にぶい焼 外にぶい黄焼	ほぼ密 径2mm以下の砂粒を少し含む	良	内?ナ? 外縁?回転付?	
SK14	14	黄緑・碗	残存高3.0	緑灰赤リブ 緑土灰	横織 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	堅緻		外面に縁溝付文
SK15	15	土・皿	口(12.2) 高3.3 底(9.5)	にぶい焼	横織 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り後一部?ナ? 物は回転付?	
	16	土・皿	口(10.1) 高1.9 底(8.3)	内黄焼 外にぶい黄焼	密 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・内面粗糸切り 物は回転付?	
	17	土・皿	口(7.8) 高1.6 底(6.4)	黄黄焼	横織 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・内面粗?ナ?後付? 底・外面粗糸切り 物は回転付?	
	18	土師質・鉢	残存高11.1	内焼 外にぶい赤褐	粗 径6mm以下の砂粒を多く含む	良	口・外面粗縁33?付? 内?ナ? 外?ナ?後縁目	外面にスス
	19	土師質・鉢	残存高6.4	にぶい焼	粗 径4mm以下の砂粒を多く含む	良	口33?付? 内?ナ? 外?ナ?	外面にスス
SD2	20-1	土・皿	口13.2 高3.8 底6.2	にぶい焼	横良 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	口内面粗?ナ?後付? 底・外面粗糸切り 物は回転付?	底面外面に油煙
	2	土・皿	口11.7 高2.4 底6.4	にぶい焼	密 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	
	3	土・皿	口11.9 高2.9 底6.5	にぶい黄焼	横良 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	
	4	土・皿	口11.2 高2.9 底6.5	にぶい焼	横良 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	
	5	土・皿	残存高2.6 底6.0	にぶい焼	横良 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	内面に油煙
	6	土・皿	口(7.4) 高2.0 底4.3	にぶい焼	横織 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	口縁部内面に油煙2か所
	7	土・皿	口(7.7) 高1.9 底3.7	にぶい焼	横良 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	
	8	瓦質・片口付磨鉢	残存高5.9	にぶい黄	ほぼ密 径1mm以下の砂粒を少量含む	やや不良	口33?付? 内?ナ?後縁目 外?ナ?後縁目	
	9	土師質・鉢	残存高11.1	内にぶい焼→ 外黄焼	粗 径4mm以下の砂粒を多く含む	良	口33?付? 内?ナ? 外33?付?後?ナ?付?	外面に薄いスス
	10	土・埴	口(7.8) 高4.9 底(7.8)	にぶい焼	密 径1mm以下の砂粒をわずかに含む		手ねね	
SD3	11	土・皿	口(11.1) 高3.9 底(8.5)	にぶい黄焼	横良 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外面粗糸切り 物は回転付?	内外面にスス
	12	土師質・鉢	残存高6.9	にぶい焼	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口33?付? 内?ナ? 外?ナ?	内面にコゴ 外面にスス
SD4	13	瓦質・磨鉢	残存高4.7 底(9.0)	にぶい黄焼	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	やや不良	内黄目	内面にスス
	14	瓦質・火鉢	残存高5.9	内黄灰 外緑灰黄	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	やや不良	内面粗?ナ? 外面粗?ナ? 外工具?ナ? 突帯?回転付?	突帯部に四方篆文の印文
	15	土師質・鉢	残存高10.7	にぶい焼→ にぶい黄焼	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口33?付? 内?ナ? 外?ナ?後縁目	内面にコゴ 外面にスス

出土遺構	探函番号	図版番号	器種	法量(單元値) cm	色調	胎土	構成	成形・調整技法	備考
SD4	20-16		土師貫・鉢	残存長11.8 口144.6	内におい摺 外におい摺 におい摺	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口377+ 内のみ 外ナシ	外面にスス
SD5	17		土・皿	高さ2.5 底3.6	内におい黄緑 外浅黄緑～ におい黄緑	練土 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・外 面転糸切り 他は面転ナシ	内面に油障
SD6	18		土師貫・鉢	残存高5.7	におい焼	やや粗 径4mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口377+ 他はナシ	内面にコゲ 外面にスス
SP4	19		瓦貫・鉢	残存高4.3	内薄灰 外灰黄緑	ほぼ密 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	やや不良	口377+ 他はナシ	
SP9	20		青磁・碗	残存高3.8 高さ径6.0	輪刷オリーブ 灰	練土 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	硬面	口377+ 口底成形	見込みにも文あり

<土製品>

出土遺構	探函番号	図版番号	器種	法量(單元値) cm	色調	胎土	構成	成形・調整技法	備考
SK14	21-1		輪羽口	残存長3.8 残存幅3.2 残存底3.0	内薄 外におい摺 ～薄	ほぼ密 径1mm以下の砂粒を少量含む	良	内・外ナシ	
SD2	2	9	輪羽口	残存高8.0 残存幅5.2 残存高5.7	におい黄緑 ～黄灰	ほぼ密 径2mm以下の砂粒を少量含む	良	内・外ナシ	先端に黒色の敷付茶 その下は泡状の敷付茶 さらに下段は瓦質化

<石製品>

出土遺構	探函番号	図版番号	器種	石材	長さcm (残存値)	幅 cm (残存値)	厚さ cm (残存値)	重さ g	備考	
SK9		21-3	9	磨石	安山岩	13.0	10.7	9.3	1,762	
			4		台石	花崗岩	(9.0)	11.1	7.8	1,202

<瓦類>

出土遺構	探函番号	図版番号	器種	法量cm (單元値)	色調	胎土	構成	成形・調整	備考
SD4	21-5	9	棟先瓦	残存長 8.6 残存幅 8.1 厚さ 2.3	におい赤褐 ～紫赤褐	やや粗 径4mm以下の砂粒をやや多く含む	良	側面へうた入り 後面へうた入り	釘穴は両側から穿孔
		6	丸瓦	残存長10.5 残存幅 7.0 残存高 6.6	内薄～浅黄緑 外浅黄緑 ～灰白	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	凸 縁首特長 凹 縁高狭 他はナシ	
SD2	7	9	平瓦	残存長 11.1 残存幅 14.6	灰黄～黄灰	粗 径3mm以下の砂粒を多く含む	やや不良	側縁部へうた切り後ナシ	

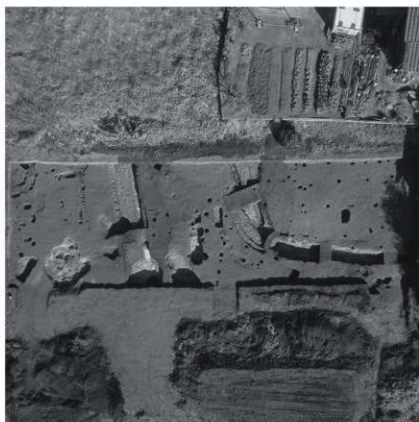


①調査区全景 (上空から)

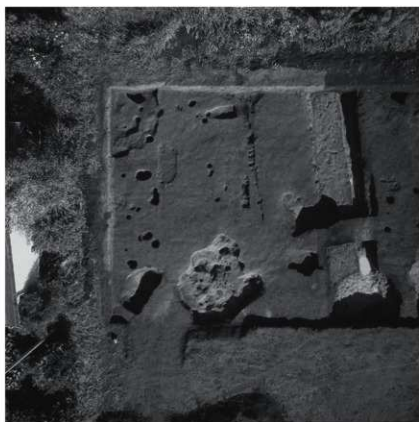


②調査区全景 (南東側上空から)

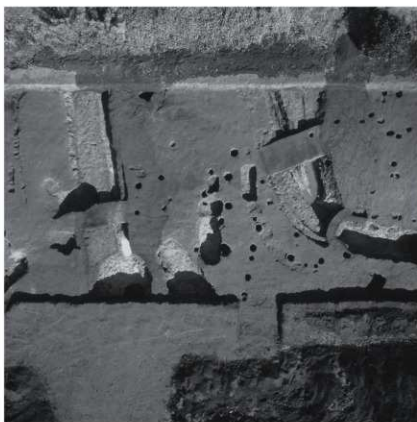
図版 2



①調査区近景 (上空から)



②調査区西部 (上空から)



①調査区中部(上空から)



②調査区東部(上空から)

図版 4



①掘立柱建物群検出状況(東から)



⑤4号掘立柱建物完掘(南から)



②1号掘立柱建物完掘(東から)



⑥1号土坑土層断面(東から)



③2号掘立柱建物完掘(南から)



⑦1号土坑土層断面(南から)



④3号掘立柱建物完掘(東から)



⑧1号土坑完掘(東から)



① 2号土坑土層断面(南東から)



⑤ 5号土坑完掘(南から)



② 2号土坑完掘(南東から)



⑥ 7号土坑中ビット土層断面(南から)



③ 3号土坑完掘(東から)



⑦ 7号土坑完掘(南から)



④ 5号土坑土層断面(南から)

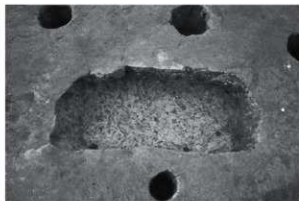


⑧ 9号土坑土層断面(南西から)

図版 6



① 9号土坑完掘 (南西から)



⑤ 11号土坑完掘 (東から)



② 10号土坑土層断面 (北から)



⑥ 12号土坑土層断面 (南東から)



③ 10号土坑完掘 (西から)



⑦ 12号土坑完掘 (南東から)



④ 11号土坑土層断面 (東から)



⑧ 13号土坑土層断面 (西から)



① 13号土坑完掘 (西から)



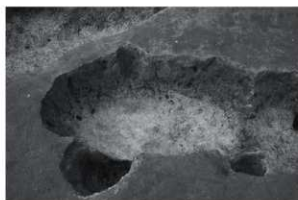
⑤ 16号土坑完掘 (東から)



② 14号土坑土層断面 (西から)



⑥ 2・3号溝状遺構完掘 (南から)



③ 14号土坑完掘 (東から)



⑦ 2・3号溝状遺構ベルト土層断面 (南から)



④ 15号土坑完掘 (北西から)



⑧ 2・3号溝状遺構北端土層断面 (南から)

図版 8



① 4号溝状遺構完掘 (西から)



⑤ 5・6号溝状遺構完掘 (南から)



② 4号溝状遺構西側ベルト土層断面 (西から)



⑥ 6号溝状遺構完掘 (南から)



③ 4号溝状遺構東側ベルト土層断面 (西から)



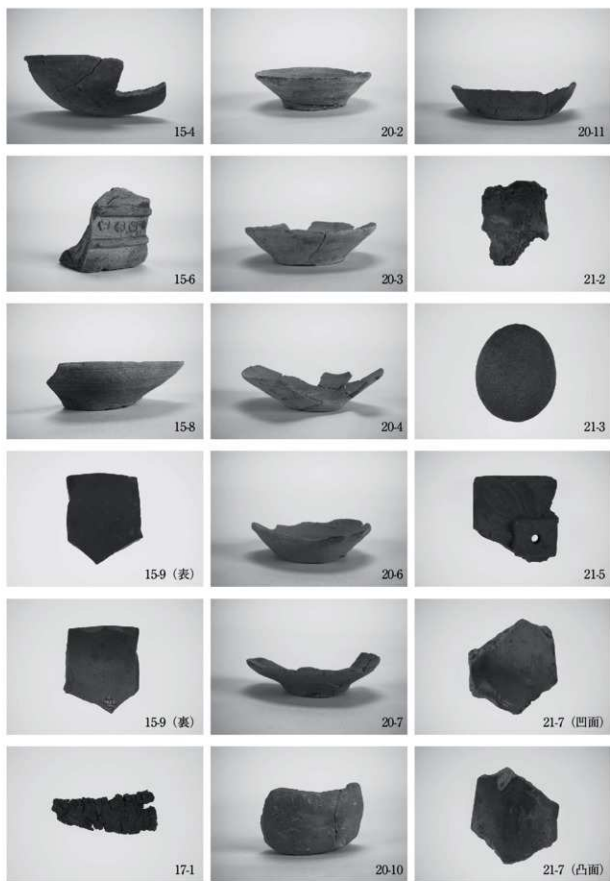
⑦ 6号溝状遺構ベルト土層断面 (南から)



④ 5号溝状遺構完掘 (南から)



⑧ 1号不明遺構完掘 (南東から)



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	みつさわごんどういせき							
書名	三沢権道遺跡4							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第337集							
編著者名	杉本岳史							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 ☎0942-72-2111							
発刊年月日	2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みつさわごんどう 三沢権道 いせき 遺跡4	福岡県 小郡市 三沢	40216		33° 41' 35"	130° 55' 55"	2018.10.1 ～ 2018.11.28	342.16 m ²	共同住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
三沢権道 遺跡4	集落	中世		掘立柱建物4棟 土坑15基 溝状遺構6条		土師器 磁器 瓦 鉄製品		
要 約	<p>三沢権道遺跡4で注目される遺構は、掘立柱建物群と区画溝である。掘立柱建物は3間×1間の側柱建物を中心とし、数棟が切り合い関係にあることから、集落が一定の時期継続したことが分かる。区画溝は、幅2m以上、深さ50cm以上を測る大型のものである。この掘立柱建物と区画溝というセットは、市内の他の遺跡でも見られ、中世小郡の拠点集落の形態を示すと考えられる。</p>							

三沢権道遺跡4

小郡市文化財調査報告書

第337集

2020年3月31日

発行 小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡255-1

印刷 片山印刷(有)

福岡県小郡市紙園1-8-15